

MEMO



#戸っこ(しすいちゃん)

保護者のための 安全・安心ハンドブック

しっかり確認

すぐに渡らず

いったん止まって右左



#戸っこ(しすいちゃん)

酒々井町

はじめに保護者の方へ

日頃より、児童の登下校に際し安全な通行のため、通学路において旗振り誘導にご協力いただき、誠にありがとうございます。

町では、子どもたちの安全安心のため、保護者の皆様はもとより様々な団体や個人の方々にご協力をいただき、登下校時の見守り活動を実施しています。特に、登校時はドライバーも歩行者もあわただしい時間帯で、下校時は子どもたちがいち早く家に帰りたい一心で落ち着きがなく、より安全で効果的な横断誘導が必要不可欠です。

そこで、横断旗の使い方や子どもたちの誘導等について、このハンドブックにまとめましたので、児童と誘導される皆様の安全を守るために是非ご活用ください。

子ども交通事故の現状

12歳以下の歩行者では、7歳の事故が突出して多く、原因としては小学校入学前は、保護者と一緒に外出する機会が多かったが、入学後は1人で行動する機会が多くなったことが考えられます。

また、下校時間帯の14時から16時に多く発生しています。



酒々井町防犯ボックス

町では、平成29年4月から地域防犯力向上のため、JR酒々井駅東口駅前交流センター脇に「防犯ボックス」を設置しています。

警察官OBであるセーフティアドバイザーを3人配置して、パトロール、下校時の子どもたちや夜間における女性の見守り活動等、住民の自主防犯活動を支援する活動を行っております。

<活動時間>

- ・14時から22時まで（原則）
- ・勤務日は、月から土曜日（年末年始を除く）

<主な活動内容>

- ・自治会の防犯ボランティア団体などと合同パトロール、見守り、街頭監視
- ・青色回転灯装着車両によるパトロール
- ・防犯広報・情報発信活動



下校時の
見守り活動

子どもを守る防犯対策

危険を回避するための合言葉

～いかのおすし～

いか：ついて**い**かない

の：車に**の**らない

お：「助けて」と**お**おごえを出したり、防犯ブ

ザーを活用する

す：怖い思いをしたら大人のいる方に**す**ぐ逃げる

し：周りの人に**す**ぐ**し**らせる



子ども達自身が、自分の身を自分で守る方法を知り、それを身につけていくことが大切です。

児童の特性

- 児童は、大人より視野が狭く、目の高さも低いため、大人が見えている危険が児童には見えていないことが多くあります。
- 児童の危険予測の能力や危険回避能力は、児童の発達段階によって、差があることを理解してあげることが大切です。

<参考>



旗振り誘導の法的根拠

道路交通法第14条第4項には

「児童又は幼児が、小学校又は幼稚園に通うため、道路を通行している場合において、誘導・合図その他適当な措置をとることが必要と認められる場所については、警察官等その他その場に居合わせた者は、これらの措置をとることにより、児童又は幼児が安全に道路を通行することができるように努めなければならない。」と規定されています。



注意

皆さんには、警察官に認められている「交通規制」の権限はなく、あくまでも協力を求める「誘導」という姿勢での活動となります。

横断旗は、ドライバーに対して横断者の存在を知らせるものとお考え下さい。

車を運転する保護者の方へ

ゼブラ・ストップの徹底を！

「**前**方」

「前方」をよく見て運転、横断歩道に十分注意

前をよく見て安全運転、横断歩道を発見したら、その周りに歩行者等がいなければ十分注意!

「**ブ**レーキ」

横断歩道の手前では、「ブレーキ」操作で安全確認

渡るつもり歩行者等がいるかも知れない場合は、横断歩道の手前で停まれる速度で進もう!

「**ラ**イト」

横断歩道でも3(サン)・「ライト」で交通事故防止

車の「ライト」早めの点灯、小まめな切り替えで横断者を早期発見

横断者も反射材等で「ライト」アップ

「ライト」(右)からの横断者にも注意

千葉県・千葉県警察警

千葉県交通安全対策推進委員会作成チラシより

注意すること

- 車が並んでしまったり、児童がたまっても慌てない。
- 合図は大きく、はっきりと正確に行う。
- 2人以上で行う場合、リーダーを決め、声を掛け合ってお互いが異なる合図を出さない。
- 大型車等後続の車が見えない大きな車は止めない。
※大型車等の後続車の車が前方を確認せず衝突したり、横断中の児童に気づかずに大型車等を追い越して事故につながる可能性があります。

もしも交通事故が発生したら . . .



1. 負傷者を救護する

負傷者の状態を確認し、安全な場所へ移動させ、すぐに119番で救急車を呼びましょう。

2. 危険を防止する

2次災害を防ぐため、事故車などを路肩へ避け、後続車へ事故を知らせましょう。

3. 警察へ通報する

110番すると、事故状況を聞かれます。落ち着いて答えましょう。

活動時の心構え

● 誘導するときの安全な服装

- ・車から見えやすい、目立つ（反射材等活用）服装
- ・動きやすい、かかとの低い靴
- ・雨の時は傘を持たず、レインコートを着用
- ・乳児・幼児を現場に連れて行かない

● 誘導者の立つ位置

- ・ドライバーに見えるよう電柱や看板、樹木等の影になる場所を避ける。
- ・背後にガードレールや溝など、逃げ場のない場所は避ける。
- ・配置は歩道（路側帯）の中で！車道にはなるべく出ない。

<危険例>



→物陰に隠れてしまいドライバーから誘導者の姿が確認できない

お願い

交差点内に入り誘導を行っている方が多く見られます。
このような配置は大変危険です。
活動中も受傷事故防止に配慮しましょう。

旗振り誘導の流れ



1

道路に正対し、基本的には車道に出ず、歩道（路側帯）内で誘導しましょう。左手で旗を持ち、子どもが車道に出ないように抑えておきます。



3

運転手とアイコンタクトをとり、両方向の車が停止したことを確認してから、旗を地面と並行に下ろします。



4

後続車やバイクが追い越して来ないか、自転車がすり抜けて来ないか等、安全を確認してから子どもを誘導します。



5

2

旗を右手に持ち替え、右斜め上に挙げ、車に対して合図を行います。左手で子どもが車道に出ないように抑えておきます。



6

5

左手で次横断する子どもが車道に出ないように抑えておきます。協力してくれたドライバーに会釈して感謝の気持ちを伝えましょう。

基本的にはこの繰り返しです。